

政策カルテ

1. 政策の位置づけと目標

		主管課		学校教育課					
政策の柱	市民の学ぶ意欲と豊かな心を育むために	取組の基本方向	「信頼される学校教育を推進する」ため、確かな学力を身に付けた児童生徒を育成するための「学力向上の推進」、心身ともにたくましい児童生徒を育成するための「豊かな人間性と健やかなからだの育成」、信頼性の高い、特色と魅力ある学校づくりのための「地域と連携した独自性のある学校経営の推進」、教育施設の安全性・快適性を高めるための「教育環境の充実」、特別な支援を必要とする児童生徒に適切な教育を提供するための「特別支援教育の充実」、教職員の資質・専門性の向上を図るための「高い指導力と情熱をもつ教職員の育成」、生涯にわたる人間形成の基礎を培うための「幼児教育の充実」、市民の自己実現の一翼を担う「高校、高等教育の充実」に、重点的に取り組みます。						
政策名	2 信頼される学校教育を推進する								
目標	信頼される学校教育が推進され、児童生徒が、充実した学校生活を送っています。	政策の指標	子どもたちに対して、充実した学校教育が行われていると感じている市民の割合						
政策を取巻く環境	少子高齢化や高度情報化、国際化などの社会経済環境の急激な変化に伴い、近年、家庭・地域社会など子どもを取巻く環境が大きく変化しており、学校教育に対しても新たな取組が求められている。こうした中、児童生徒はもとより、家庭・地域からも信頼される学校教育を推進していくことが重要になっている。	政策指標の進捗状況	H19：基準	H20	H21	H22	H23	H24：目標	進捗状況
			30.8%	32.6%				41.0%	79.5%

2. 政策の評価

現状と課題の分析	政策指標の進捗状況は1.8ポイント上昇しているものの、目標の41.0%を達成するためにはさらなる工夫、改善が必要である。各施策の状況については、施策指標の達成度が一定の高い数値を示しているものがほとんどであるが、「学力向上の推進」における学習内容定着度調査の正答率については、目標値との差が大きく、今後は、教員の授業力向上に関わる事業を再編成して実施することにより、学力向上を図る必要がある。また、学校教育充実のためには「高い指導力と情熱をもつ教職員の育成」が不可欠であることから、高い使命感と責任感を持ち、リーダーシップを発揮できる人材を育成するシステムづくりが必要である。これらに取り組みとともに、家庭・地域から信頼される学校教育の推進には、教育活動の場となる施設整備も求められることから、耐震化の前倒しや、空調機設置などにより教育環境を充実させることが重要である。
----------	---

3. 政策を構成する施策一覧

施策名	施策の達成状況					施策の二次評価	市民の意識	
	施策の指標	H19：基準	H20	H24：目標	進捗状況		満足度	重要度
1 学力向上の推進	学習内容定着度調査での正答率(中学3年生の国語)80%以上の割合(%)	53.8	35.4	80	44.3%	学校教育において、児童生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導を充実し、学力の向上を図ることは、きわめて重要である。そのためには、本市児童生徒の学力の状況を把握した上で指導の工夫・改善を行うとともに、学校内における授業研究を充実させ、組織的に教員の授業力を高める必要がある。また、放課後など、授業以外の時間を活用した補充学習のあり方について検討するとともに、外国人児童生徒に対する教育を充実するなどし、一人ひとりに応じた教育を推進することにより、一層の学力向上を目指すこと。	17.6%	71.8%
	学習内容定着度調査での正答率(中学3年生の国語)50%未満の割合(%)	4.7	12.8	3.6	28.1%			
2 豊かな人間性と健やかなからだの育成	いじめの解消率(小・中学校)(%)	93.8	94	96	97.9%	社会環境の変化に対応し、児童生徒が健全に育成されることが、学校教育に求められている。インターネットや携帯電話を使用した巧妙化するいじめや、成長期の子どもたちの食生活など、これらの課題に対応するため、宮っすくすくノーケータイプランや学校教育の食育推進事業におけるお弁当の日の実施などの事務事業に取り組むほか、体力向上のための元気っすプロジェクトなど新たな課題に対応した事務事業を充実させる必要がある。	20.7%	80.4%
	新体力テスト総合評価のS～A段階の割合(中学校3年生)(%)	13.9	19.2	20	96.0%			
3 地域と連携した独自性のある学校経営の推進	「魅力ある学校づくり地域協議会」において、学校経営や教育活動の充実・支援を図るために実施している事業数(件)	210	559	910	61.4%	学校と家庭・地域が連携した学校教育が求められている。引き続き、児童生徒が充実した学校生活を送るために、魅力ある学校づくり地域協議会事業における特色ある活動の充実や、学校マネジメントシステム、小中一貫教育などを着実に推進しながら、地域と連携した特色ある学校づくりをより一層進めていくこと。	20.2%	67.9%
4 教育環境の充実	耐震化率(学校校舎・体育館)	48.4	57.2	83.1	68.8%	学校施設の安全確保や老朽化への対応、快適な学習環境の確保がますます求められている。これまで校舎や体育施設等の整備について計画的に進めており、特に耐震化については、耐震性の低い建物を優先し、宇都宮市耐震改修促進計画に基づき、平成27年度までに整備を完了するよう進めているところである。今後、空調機設置やトイレ改修など学校リフレッシュ事業についても計画的に進めるとともに、これまで整備してきた情報化基盤を活かし、事務の効率化を進めるなど、ハード、ソフト両面から教育環境の充実を図っていくこと。	16.8%	72.1%

様式 3

5	特別支援教育の充実	特別な支援を要する児童生徒に対し、個別の指導計画を作成して指導している学校の割合(%)	61.6	74	98	75.5%	特別支援学級入級者や通級指導教室への通級者の増加等、市民の特別支援教育に対するニーズが高まっている。これまで、特別支援教育基本計画の策定をはじめ、体制の整備や一貫した支援のための子ども発達センターとの連携は、順調に進んできたところである。しかし、世論調査における特別支援教育の認知度や市民の満足度が低いことから、広く保護者や市民の理解を得るための啓発活動の継続や、広報紙・メディア等により一層の活用に努める必要がある。また、一人ひとりのニーズに応じた支援を行うためには、特別支援教室の環境の整備や指導内容の充実を図ることが必要である。	13.7%	70.5%
6	高い指導力と情熱をもつ教職員の育成	「教職員ひらめき提案制度」への応募案件数	42	45	300	15.0%	職員の育成は学校の信頼を高めるために重要である。ひらめき提案制度への応募数が低調なことから、これまでの優秀提案を紹介するなどにより制度の周知に努めるとともに、学校版もったいない運動の趣旨に合う提案を表彰するなど、教職員の業務改善等に対する意識の高揚を図る必要がある。また、教職員が、将来にわたり高い使命感と責任感をもって職務を遂行でき、それぞれの役割においてリーダーシップを発揮し、本市学校教育の充実に資する人材を育成するためのシステムを構築する必要がある。さらに、教育ニーズの多様化などに伴い、児童生徒指導・保護者の対応などに悩む教職員が増えていることから、早急に対策を講じる必要がある。	19.6%	77.5%
7	幼児教育の充実	幼稚園地域子育て支援事業実施園数	40	35	48	72.9%	幼児教育の充実は、教育の縦の連携、幼稚園を活用した地域における子育て支援、幼稚園への就園支援、幼稚園教員の資質向上など、多角的に事業を実施しており、人格形成の基礎を培う幼児期における教育の充実のために必要不可欠な施策である。引き続き、幼稚園・保育園・小学校の更なる連携の強化に努め、事業の充実を図ること。	53.6%	78.5%
8	高校、高等教育の充実	市内 8 大学の公開講座数	69	78	80	97.5%	高校、高等教育の充実は、本市の人材育成のために必要な施策である。よって、奨学金貸付事業については、必要としている人に相応の貸付ができるよう、積極的に周知していくこと。また、リカレント教育については、高等教育機関等で実施している高度で専門的な講座等の情報を集約し、市民に対してより積極的に情報を提供していくこと。	19.3%	15.6%